

# 北見工業大学学報

第 308 号 (2021 年 11 月号)

## 目 次

入 学 式	令和 3 年度秋季大学院入学式を举行……………	3
入 試	令和 4 (2022) 年度総合型選抜の実施……………	4
	令和 4 (2022) 年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム 入試の実施……………	4
研 究 助 成	令和 3 年度外部資金の受入状況……………	5
人 事	人事異動……………	6
受 賞	応用化学系の浪越毅准教授らがアグリテックグランプリ 2021 で サントリー賞を受賞……………	7
	本学大学院生が化学工学会第 52 回秋季大会において バイオ部会優秀ポスター賞を受賞……………	8
	本学大学院生が化学工学会第 52 回秋季大会において 分離プロセス部会ポスターセッションポスター賞を受賞……………	9
	応用化学系の大野智也教授が Advanced Powder Technology Outstanding International Contribution Award を受賞……………	10
諸 報	第 45 回国立大学 56 工学系学部長会議総会を開催……………	11
	第 11 回おおた研究開発フェア ONLINE に出展……………	12
	第 56 回国立工業大学長懇談会を開催……………	13
	屋外水路を用いた洪水流による実物車両の漂流実験を実施……………	14
	内部監査学内研修を実施……………	15
	オープンアクセスウィーク 2021 ポスター展示を実施……………	16
	第 2 回冬季スポーツ科学シンポジウムを開催……………	17
	北海道在住外国人緊急支援プロジェクト (食料支援) を実施……………	18
	中学生の上級学校訪問・職場体験学習を実施……………	19

	国立大学協会北海道地区支部会議を開催	20
	職員表彰式を挙	21
	オンライン父母懇談会(秋季)を開催	22
	メッセナゴヤ 2021 北海道ブースに出展	23
	JA きたみらいの北見工大学生への食の支援を開催	24
	第35回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展	25
	2021 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展	26
	オンライン版ネットワーク交流会(シーズ提供セミナー)に出展	27
	オホーツク防災フォーラム 2021 を開催	28
	永年勤務者表彰式を挙	29
目 誌	10月・11月	30

## = 入学式 =

### 令和3年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

10月1日(金)、本学第1会議室で令和3年度秋季大学院入学式を挙行了しました。

鈴木聡一郎学長から、留学生を含む4人の入学が許可された後、「国際化が加速するニューノーマルの時代において、社会で活躍できる研究者やエンジニアになるために、

一つの専門分野を極めるだけではなく、様々な関連する異分野の教育を受けて多くの知識を身に付けて下さい」と激励の言葉がありました。

入学者数は次のとおりです。

#### 大学院工学研究科博士前期課程

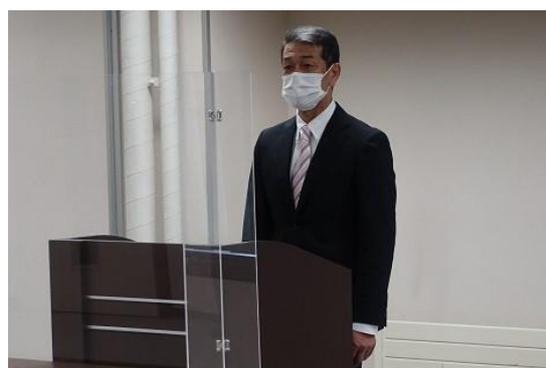
専攻名・専修プログラム名	入学者数(人)
工学専攻 情報通信工学プログラム	2
工学専攻 応用化学プログラム	1

#### 大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	1



入学式に臨む新入生



お祝いの言葉を述べる鈴木学長

## = 入試 =

### 令和 4（2022）年度総合型選抜の実施

（入試課）

10月29日（金）、令和4（2022）年度総合型選抜を実施し、11月10日（水）に合格発表を行いました。各卒の合格者数等については下表のとおりです。

卒 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
コース確定卒	14（うち2人は地域マネジメント工学コース）	38	38	13
コース確定卒（地域マネジメント工学コース）		6	6	3
第一次産業振興卒	3	5	5	3
冬季スポーツ卒	4	2	2	2
合 計	21	51	51	21

### 令和 4（2022）年度モンゴル科学技術大学 ツイニング・プログラム入試の実施

（入試課）

令和4（2022）年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試を実施し、11月10日（水）に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	若干人	2	1
地域未来デザイン工学科		10	1
合 計		12	2

= 研究助成 =

令和3年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和3年10月1日から 令和3年11月30日までの合計		前号までの合計		令和3年度累計	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
共同研究	12	5,288	98	82,523	110	87,811
受託研究	3	37,212	18	83,319	21	120,531
奨学寄附金	10	4,441	35	27,119	45	31,560

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	新 職 名 (発令事項)
3. 10. 18	学務課係長	秋元 宏太	入試課係長
〃	入試課係長	後藤 将大	入試課専門職員
〃	学務課副課長	内山 彰	学務課副課長 (係長兼務)
〃	財務課事務職員 (入試課事務職員兼務)	山上 雅之	財務課事務職員
3. 12. 1	学務課学生支援室係長	森原 早紀	学務課係長
〃	学務課副課長 (係長兼務)	内山 彰	学務課副課長

## = 受賞 =

### 応用化学系の浪越毅准教授らがアグリテックグランプリ 2021 でサントリー賞を受賞

(オホーツク農林水産工学研究推進センター)

この度、応用化学系の浪越毅准教授（オホーツク農林水産工学研究推進センター所属）らが、株式会社リバネス主催のアグリテックグランプリ 2021 においてサントリー賞を受賞しました。

アグリテックグランプリは食、農、環境、水資源、バイオマス等アグリテック領域の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としたプログラムで、今回は「アジア 50 億人の食糧生産」が募集テーマでした。

9 月 18 日（土）、東京都墨田区のセンター・オブ・ガレージで最終選考が行われ、316 チームの中から書類審査を通過したファイナリスト 12 チームがアグリ分野の課題解決に向けた想いを熱くプレゼンテーシ

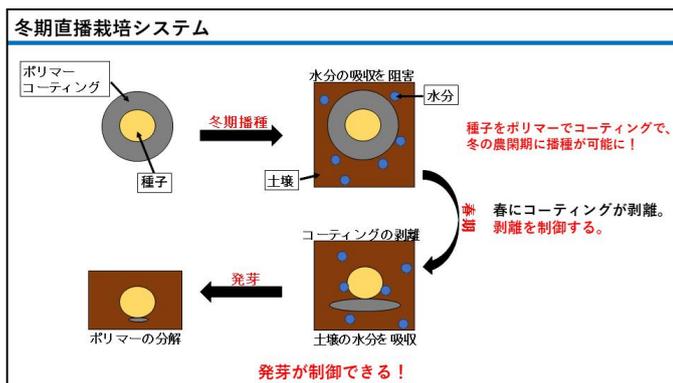
ョンしました。

浪越准教授を代表とする高分子ラボは「種子のポリマーコーティングによる農作業負担の軽減」をテーマに、農作業の時期集中を緩和するため、冬期の農閑期に播種を可能にする開発中の種子コーティングについて発表しました。この発表は、商品の原料開発などに携わるサントリーグローバルイノベーションセンター株式会社の審査員らから高い関心を集め、本賞の受賞となりました。

今後も、人口の減少、高齢化を課題とする農業の負担軽減を目指しさらなる研究を進めていきます。



受賞した浪越准教授



「種子のポリマーコーティングによる農作業負担の軽減」

## 本学大学院生が化学工学会第52回秋季大会において バイオ部会優秀ポスター賞を受賞

(応用化学系)

9月22日(水)～24日(金)に開催された化学工学会第52回秋季大会において、本学大学院生の吉田果菜子さん(博士前期課程 バイオ環境化学専攻2年、指導教員:小西正朗教授)がバイオ部会優秀ポスター賞を受賞しました。

本大会は、公益社団法人化学工学会が主催している全国規模の学術講演会で、今回はオンラインと現地開催のハイブリット形式で行われました。

吉田さんは、「ハイスループットな評価系

と機械学習を組み合わせたシミュレーションによる培地の設計と最適化」というタイトルでオンライン発表しました。この研究では、多くの成分を組合わせて調整する微生物培地について、小スケールかつ効率的な培養実験によるデータ収集と機械学習により最適な培地を設計する手法を提案しました。

バイオ部会シンポジウム受賞者一覧

([http://www3.scej.org/meeting/52f/pages/jp\\_winnerlist.html?sess=SY-67](http://www3.scej.org/meeting/52f/pages/jp_winnerlist.html?sess=SY-67))



受賞した吉田さん

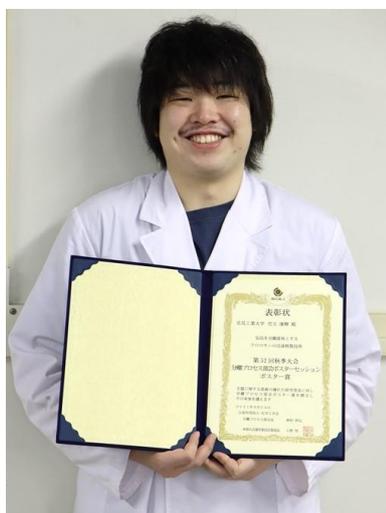
## 本学大学院生が化学工学会第 52 回秋季大会において 分離プロセス部会ポスターセッションポスター賞を受賞

(応用化学系)

9月24日(金)、本学大学院生の児玉康輝さん(博士後期課程 生産基盤工学専攻1年、指導教員:齋藤徹教授)が、化学工学会第52回秋季大会において分離プロセス部会ポスターセッションポスター賞を受賞しました。

本大会は、公益社団法人化学工学会が主催している全国規模の学術講演会で、今回は9月22日(水)~24日(金)にオンラインと現地開催のハイブリット形式で行われ、分離プロセス部会シンポジウムポスターセッションは24日(金)にオンラインで開催されました。

児玉さんの発表タイトルは「気泡を分離媒体とするクロロキンの迅速精製技術」です。薬物の製品化には晶析やクロマトグラフィー等による分離精製が不可欠であり、多大な手間と時間と費用を必要とします。有機溶媒や吸着材の使用による環境への負荷も課題となる中、本研究では、抗マラリア薬であるクロロキンについて、不純物を含む合成後の粗製物を溶解した水溶液に気泡を導入するだけで高純度な薬物が得られることを明らかにしました。今後、様々な薬物の簡便・迅速・低環境負荷型分離精製技術としての可能性が期待されます。



受賞した児玉さん



表彰状

## 応用化学系の大野智也教授が Advanced Powder Technology Outstanding International Contribution Award を受賞

(応用化学系)

10月13日(水)、応用化学系の大野智也教授が、第4回2020年 Advanced Powder Technology Outstanding International Contribution Award を受賞しました。

この賞は、一般社団法人粉体工学会英文誌編集委員もしくは査読者として英文誌の論文審査に関わり、その優れた審査実績により、顕著な貢献があったと認められた者に贈られる賞です。大野教授は Elsevier

が発行する学術雑誌『Advanced Powder Technology』(粉体工学会英文誌)の Editor として2014年10月よりこれまで約7年間活躍しておりますが、その間、本雑誌の Impact Factor が 2.716 (@2015) から 4.833 (@2020) と急激に増加し、粉体工学分野における世界的な一流誌として成長する過程に大きく貢献した功績が認められ、今回の受賞となりました。



受賞した大野教授



副賞

## = 諸報 =

### 第 45 回国立大学 56 工学系学部長会議総会を開催

(総務課)

10月5日(火)、本学が当番校となり第45回国立大学56工学系学部長会議総会をオンラインで開催しました。本会議は、全国56の国立大学工学系学部長が工学系の教育研究に係る共通の諸問題について協議し、我が国における工学系の教育研究の改善、向上及び発展に寄与することを目的としています。

本総会では鈴木聡一郎学長の挨拶から始まり、文部科学省高等教育局の奥井雅博専門教育課課長補佐による「工学系の専門教

育を取り巻く現状と課題」と石川真理国立大学法人支援課課長補佐による「令和4年度概算要求について」と題した講演が行われました。

その後、新型コロナウイルス感染症対策を講じた状況下における授業の実施方法や学生支援、数理・データサイエンスやAI教育プログラム認定制度への対応、工学部志願倍率向上や生き残りをかけた戦略についてなど協議を行い、各大学が活発に意見を交わし、盛況のうちに閉会となりました。



挨拶する鈴木学長



議長を務める柴野純一理事・副学長



講演する奥井専門教育課課長補佐



講演する石川国立大学法人支援課課長補佐

## 第 11 回おおた研究開発フェア ONLINE に出展

(社会連携推進センター)

10月7日(木)～10月8日(金)、オンラインで開催された第11回おおた研究開発フェア ONLINE に本学から初めて出展しました。

本イベントは、開発した技術の用途開発や共同研究先を探す出展者と技術革新を目指す来場者のマッチングの場として、東京都大田区と公益財団法人大田区産業振興協会の主催により毎年開催されています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点からオンラインでの開催となりました。加工技術や環境技術、IT システム開発、電気電子、バイオ、医療など様々な分野に分かれ、全 76 機関の企業・大学が

出展し、2 日間で計 969 人が本フェアへ訪れました。

本学からは、材料技術の分野において、応用化学系の大津直史教授が「既存チタン製品に後付けで抗ウイルス皮膜形成できる簡便表面処理プロセス」についてプレゼンテーション動画の配信と関連資料の公開を行いました。大津教授の研究内容に興味をお持ちいただいた来場者も多く、共同研究等への発展が期待される貴重な機会となりました。

今後も本イベントに限らず、本学の研究シーズを積極的に紹介し、更なる産学連携の強化に努めていきたいと考えています。

大津教授の出展ページの様子

**材料技術 北見工業大学**

**既存チタン製品に後付けで抗ウイルス皮膜形成できる簡便表面処理プロセス**

①出展する技術・製品の特徴  
抗ウイルス性光触媒NドープTiO<sub>2</sub>皮膜をチタン材料表面に低投資・低コストで付加する技術の紹介です

②想定される用途、応用分野  
用途:チタン製品のCOVID-19への対応、応用分野:チタンを素材として用いる製造業全般

③現在の課題や希望する連携相手  
課題:皮膜強度の更なる改善、希望相手:表面処理業、金属加工業、製造業、医療機器関連企業

技術シーズ (公式ガイドブック抜粋)

## 第 56 回国立工業大学長懇談会を開催

(総務課)

10月8日(金)、本学が当番校となり第56回国立工業大学長懇談会をオンラインで開催しました。

本懇談会には13大学24人の各学長及び理事等が出席し、本学の鈴木聡一郎学長が議長を務め、文部科学省高等教育局の中澤恵太専門教育課企画官による「ニューノーマル時代の高等教育について」と題した講

演が行われました。

その後、「理工学系における女子学生増加や女性教員増加」、「ジョブ型インターンシップ」や「脱炭素、デジタル化社会における工学系博士人材の育成、輩出の在り方」について協議されました。

次回懇談会は、電気通信大学が当番校となり開催される予定です。



講演する中澤専門教育課企画官



オンラインで開催した懇談会

## 屋外水路を用いた洪水流による実物車両の漂流実験を実施

(地域と歩む防災研究センター)

10月14日(木)、地域と歩む防災研究センター(以下、SAFER)と東京理科大学工学部土木工学科水理研究室は、オホーツク地域創生研究パーク(旧北見競馬場)に設置した大規模屋外水路を用いて洪水流による実車両の漂流実験を実施しました。

昨今の豪雨災害で顕著化している河川氾濫被害の一つとして、自動車走行中に洪水流に巻き込まれて漂流する事例が多発しています。先行研究では小型の車両模型を使った室内実験が主に行われていますが、洪水流の中にある実車両の漂流発生条件については未だに不明点が多く、洪水時の車両利用のリスクの認識が十分に浸透していま

せん。

本実験では、長さ70メートルの巨大な屋外水路の中央に5人乗りのコンパクトカーを設置し、SAFERと連携協定を締結している北海道開発局網走開発建設部北見河川事務所の協力により排水ポンプ車2台を稼働して水流を発生させました。

浸水して重くなった事などが原因で車両は流されませんでした。災害現場に近い状況を再現することで、今後の分析に必要な記録を取ることができました。

複数のメディアからも取材を受け、地域の防災への関心の強さや今後の展開への期待が寄せられていることが窺えました。



屋外水路全体の様子



実験の概要を説明する  
東京理科大学の小野村史穂助教(右手前)



水流を受ける車両と観測する研究者ら



## 内部監査学内研修を実施

(総務課)

10月15日(金)、令和3年度内部監査に向けての学内研修をオンラインで実施しました。

この研修会は、今年2月に「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」が改正されたことに伴い、不正防止対策の体制整備及び内部監査の質の向上が求められたことにより実施したもので、本学では初めての内部監査にかかる学内研修となりました。

講師は本学の監事で公認会計士である谷口雅子氏とMPX マネジメント・パワー・エクスチェンジ株式会社代表取締役(公認会計士・税理士)である宇佐美豊氏のお二人で、本学の監査室員及び公的研究費の管理業務を担当している職員ら32人が受講しました。

宇佐美氏からは「内部統制のフレームワークとモニタリング・内部監査活動」と題して、業務実施にあたっての担当者及び管理者のリスク管理と役割、環境変化に伴う内部統制機能の重要性などについて、ご講義いただきました。

さらに、谷口氏からは「監事からみる大学内部監査のあり方」と題して、内部監査は広い範囲で捉える必要があること、不正のトライアングルとしての3つの要素(動機・機会・正当化)などについて、ご講義いただきました。

今回の研修は、10月25日(月)から28日(木)に実施する内部監査の事前研修となっており、監査に臨む職員にとって大変貴重な機会となりました。



### 研修資料



講師の宇佐美氏



講師の谷口氏

## オープンアクセスウィーク 2021 ポスター展示を実施

(情報図書課)

オープンアクセスとは、学術研究成果を誰でも無料でインターネットを通じて自由に利用できるようにすることで、オープンアクセスウィークは、2008年にアメリカで立ち上がって以後毎年10月に開催されているオープンアクセスの意義を周知するイベントです。2021年のテーマは「“It Matters How We Open Knowledge: Building Structural Equity” いかにか知識をオープンにするか：構造的公平性の構築を目指して」でした。

本学でもこのオープンアクセスウィーク

に合わせて、10月22日（金）～11月1日（月）にポスター展示を行いました。展示ではオープンアクセスの意義や本学の機関リポジトリKIT-R(きっとあーる)をPRし、チラシも配布しました。

学術雑誌の価格が高騰し、学術論文にアクセスできる機会が減ってしまうことが懸念される中、オープンアクセスは研究成果の共有と再利用を進める手段として有効です。ぜひ研究者の皆さまはKIT-Rでの学術成果の公開にご協力をお願いいたします。



ポスター展示の様子（4号館講義室前）



配布したチラシ

## 第2回冬季スポーツ科学シンポジウムを開催

(冬季スポーツ科学研究推進センター)

10月24日(日)、冬季スポーツ科学研究推進センター(以下、WinSS)主催の第2回冬季スポーツ科学シンポジウムを、アルゴグラフィックス北見カーリングホールからのライブ配信によりオンラインで開催しました。本シンポジウムの開催にあたっては、北見市教育委員会に後援を、アルゴグラフィックス北見カーリングホールに協力をいただきました。

WinSS アドバイザーの鈴木聡一郎学長が開会挨拶をした後、多くの専門家やスポーツ競技者が聴講する中、アルペンスキー部門・カーリング部門の研究者や学生らが、少し緊張した面持ちでこれまでの研究成果を発表しました。

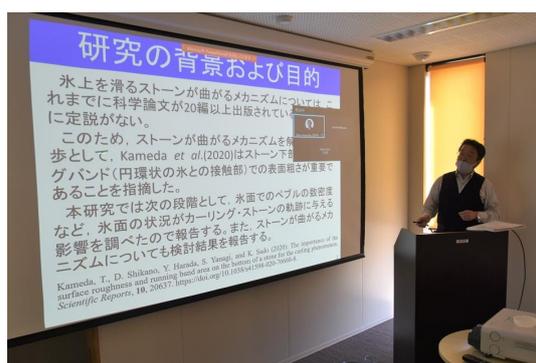
特別講演には、国立スポーツ科学センターの相原伸平研究員をお招きし、「ハイパフォーマンススポーツを支えるテクノロジーの現在と未来」と題し、東京2020オリンピ

ック・パラリンピック向けにも研究・開発された事例や、競技だけでなく食事やメンタルトレーニングなどにも関連するスポーツテックの事例をご紹介いただきました。

パネル討論では、WinSSの梶井文人センター長(情報通信系・教授)を中心に全国各地から集結したカーリング研究の専門家らが、それぞれの観点からカーリングを分析している現状と展望について意見を交換しました。

アルペンスキー部門の討論では、鈴木学長と本学冬季スポーツアドバイザーの武田竜さんとのトーク企画を開催し、それぞれが競技者と科学者の目線でアルペンスキー競技の現状について語り合いました。

WinSSではアルペンスキー・カーリングを中心にスポーツ競技の向上に寄与できるようなシンポジウムを通じ、今後も広く情報発信に努めていきます。



カーリング研究について発表した  
亀田貴雄教授



アルペンスキーについて語らう  
(左から) 武田氏と鈴木学長

## 北海道在住外国人緊急支援プロジェクト（食料支援）を実施

（国際交流センター）

10月24日（日）、本学講義室にて北海道在住外国人緊急支援プロジェクト（食料支援）を行いました。

本プロジェクトは、北海道国際交流・協力総合センター（以下、HIECC）が主催し、道内の国際交流団体等と連携して、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い生活が厳しくなっている道内在住の外国人のみなさんに、食べ物や生活用品を無料で配布するものです。

HIECC から提供いただいた食料・日用品

などは、事前に応募があった50人の外国人留学生に配布しました。当日は、学年ごとに受取時間を区切るなど、感染症防止対策を講じた中で配布が行われ、支援を受けた留学生からは「生活の助けになります。ありがとうございます」「外国人を支援してくださる方々がいらっしゃることは非常に心強いです」等のコメントが寄せられました。

国際交流センターでは、今後も生活に苦しんでいる留学生への支援を継続して行っていきます。



会場の様子



食料品を受け取る学生



ご提供いただいた食料品等

## 中学生の上級学校訪問・職場体験学習を実施

(研究協力課)

本学が社会貢献の一環として、教育機関や地域の団体等を対象に、施設見学や体験授業の提供を行う「社会貢献プログラム」を利用し、オホーツク管内4校の中学校が上級学校訪問・職場体験学習を行いました。

10月28日(木)、佐呂間町立佐呂間中学校から3年生10人が来学し、社会環境系の八久保晶弘教授による「燃える氷『メタンハイドレート』を体験しよう」、技術部による「ものづくり体験(サンドブラスト)」の2つのプログラムを体験しました。

11月4日(木)、北見市立相内中学校から3年生3人が来学し、機械電気系の裡しゅりふ教授と久保明彦助教による「3Dプリンターでモノづくり体験」の後、大学図書館を見学しました。

11月5日(金)には2校から生徒が来学しました。北見市立上常呂中学校からの3年生2人は、技術部による「ものづくり体

験(サンドブラスト)」と情報通信系の原田建治教授による「光学実験室探検」を行いました。また、北見市立東陵中学校からの2年生9人は、社会環境系の川尻峻三准教授(地域と歩む防災研究センター・センター長)の案内により、オホーツク地域創生研究パークで行っている研究を現地で見学した後、地盤内部を調べる表面波探査を体験しました。

社会貢献プログラムは、北海道の緊急事態宣言が解除された10月1日以降に再開し、体温測定や手指の消毒、学内で実施する場合は体験人数を1プログラムにつき5人以下に制限するなど、十分な感染症対策を行いながら可能な範囲で実施しています。

今後も新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しながら、できるだけ地域の要望に応じていけるよう、社会貢献事業に取り組んでいきます。



八久保教授による体験



技術部による体験



原田教授による体験



川尻センター長による紹介



裡教授・久保助教による体験

## 国立大学協会北海道地区支部会議を開催

(総務課)

10月29日(金)、本学を当番校として国立大学協会北海道地区支部会議(令和3年度第2回)をオンラインで開催しました。

同会議には北海道地区7大学の学長や事務局長等が出席し、文部科学省から堀野晶三高等教育局国立大学法人支援課長、国立大学協会から戸渡速志常務理事らが出席しました。

本学の鈴木聡一郎学長が議長を務め、「北海道との意見交換の実施」及び「第4期中

期目標期間へ向けた道内各国立大学の在り方」等について協議した後、戸渡常務理事からは「国立大学協会への職員派遣依頼について」、堀野国立大学法人支援課長からは「国立大学法人等を巡る最近の動向について」、高等教育行政の現状等にも言及しながら説明がありました。各大学から今後の課題に関する質疑があり、活発な意見交換がなされました。



説明する堀野国立大学法人支援課長



オンライン会議の様子

## 職員表彰式を挙

(総務課)

11月2日(火)、令和3年度国立大学法人北見工業大学職員表彰式を挙

行しました。鈴木聡一郎学長から被表彰者である大野智也教授に対し、表彰状の授与並びに記念

品の贈呈が行われ、輝かしい功績に対する敬意とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者及び成果等は、次のとおりです。

氏名	成果等
大野 智也	北海道科学技術奨励賞受賞



職員表彰式被表彰者

## オンライン父母懇談会（秋季）を開催

（学務課）

11月3日（水・祝）、オンライン父母懇談会（秋季）を開催しました。例年、秋には札幌・東京会場で開催していた父母懇談会ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春季に引き続きWeb会議ツール（Webex）を用いての実施となりました。

当日は事前申し込みのあった保護者（127組）の大半の面談が実施され、修学状況や学生生活、就職等についての保護者からの質問に、個別担任が対応しました。一部音声や画像の不具合もありましたが、大きなトラブル等もなく無事面談が終了しました。

参加した保護者からは「一人暮らしをしている子供の普段の様子がよくわかり安心した」、「個別担任制や父母懇談会などの取組はとても良いと思う」とのご意見をいただきました。オンラインでの面談について

は、「自身が遠方にいるため、コロナ終息後もオンラインで実施してもらいたい」といった声がある一方、「コロナが落ち着いたら、対面での面談も実施してほしい」といった声も寄せられました。また、春季に引き続き「対面での授業や課外活動の機会を増やしてほしい」といったご意見もありました。

教員からは「面談時間を内容に合わせて柔軟に変更してはどうか」といった声や、「大学へ来ていただく良い機会となるため、春季は対面で実施をした方が良いと思うが、遠方に住む保護者のためにオンラインも並行で実施できると望ましい」といった感想が寄せられました。

今回は令和4年6月に、本学での実施を予定しています。多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

## メッセナゴヤ 2021 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

11月10日(水)～13日(土)の4日間、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)においてメッセナゴヤ 2021 が開催されました。

本イベントは、中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で2006年にスタートしたものです。第16回目となる今回は、全国から840機関が出展し、来場者は3万6千人にのびりました。

なお、今年は11月1日(月)～19日(金)にオンライン展示会も同時開催され、時間と場所に制約されることなく、オンラインでの名刺交換などが行われました。

例年、北海道の企業・大学・自治体は、北海道庁の取りまとめのもと設置された北海道ブースに出展しています。今年は各機関が有する自動車、IT、カーボンニュートラル等の関連技術などを活かした取り組み

に焦点をあて、道内16機関が出展しました。

本学からは、社会環境系の富山和也准教授が株式会社要と共同で取り組む「簡易路面点検に基づく地域に密着した道路管理向けウェブアプリケーションの開発」について紹介しました。自動車関連の企業が多く集まる展示会ということもあり、用意した資料が全て無くなるほど多くの関心が寄せられました。また、卒業論文で今回紹介した研究に取り組む地球環境工学科4年の谷口康太さんが富山准教授とともに参加し、来場者への説明を熱心に行うなど、学生にとっても貴重な経験となりました。

来場者の中には、研究内容に興味を持った方のみならず、企業の採用担当者や本学への入学を検討している高校生、その保護者などさまざまな方がおり、技術展示だけでなく、大学広報の面からも貴重な場となりました。



北海道ブースの様子



来場者へ説明する谷口さん

## JA きたみらいの北見工大学生への食の支援を開催

(学務課)

11月11日(木)、12日(金)の2日間、JA きたみらい主催による「JA きたみらいの北見工大学生への食の支援」が本学学生を代表とするフードバンク実行委員会協力のもと開催されました。

本イベントは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴いアルバイト収入が減少して生活が厳しくなっている学生に対し、少しでも生活の助けとなるよう、JA きたみらいから乳製品や野菜の提供を受け開催されたものです。

今回のフードバンク開催にあたり、贈呈式が行われ、大坪広則 JA きたみらい代表理事組合長様、中島英樹 JA きたみらい酪農振興会会長様から、平山浩一副学長とフードバンク実行委員会代表の倉大千さんへ目録の贈呈が行われました。

なお、本イベントに合わせて、北見赤十字病院からは、フードロスが減らす観点か

ら賞味期限が近づいた災害時用の備蓄品を数多くご提供いただきました。

当日は事前に応募があった484人(2日間延べ人数)の学生が多く支援に感謝しながら食品を受け取っていました。

協賛・協力いただきました、内海農園様、北見工業大学生活協同組合様には、心より御礼申し上げます。

今回、学生からは「バイトがなかなか見つからなかったりする」「食事と灯油の値上がりに大変困っている」「親や自分の収入が減り、生活が厳しくなっている」等のコメントが寄せられ、コロナ禍において苦しい学生生活を送っていることがあらためて浮き彫りとなりました。

フードバンク実行委員会では、今後も、生活に困窮している学生への支援を継続して行っていきます。



贈呈式の様子



(左から) 中島会長、大坪組合長、平山副学長、村田美樹オホーツク農林水産工学連携研究推進センター長、倉さん、田端一徳北見工大生協専務



食品を受取る学生



提供いただいた食品

## 第 35 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月11日（木）、12日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場に第35回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）が「来場型」と「オンライン型」で同時開催されました。

本イベントは、北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催している北海道最大級のビジネスイベントです。

今年度は、「持続可能な未来創造に向けて～新たな北海道ステージの扉を開く～」をテーマに、277機関の企業・団体・大学・研究機関が出展し、来場者は約2万人、オンラインでは約8千人の参加がありました。

本学は、昨年度に続き令和4年4月に経

営統合する帯広畜産大学、小樽商科大学と合同で「北海道国立大学機構の商農工連携による北海道の課題解決に向けて」と題して出展しました。三大学の産学連携部門での運営を予定している「ACE オープンイノベーションセンター」構想の概要や、先行して進めているスマート農畜産業、観光、防災プロジェクトについて紹介しました。

本イベントには例年、本学出身者が就職・活躍している企業等の出展や、来場者として本学のブースに立ち寄る卒業生も多いため、技術広報やビジネス面だけでなく、多方面において貴重な交流の機会であると再認識することができました。



本学の出展ブース



来場者へ説明する様子

## 2021 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展

(社会連携推進センター)

11月11日(木)、12日(金)の2日間、サッポロファクトリーホールにて「2021 アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoー北海道の食と農の明日へー」が開催されました。

本イベントは、北海道地域の農林水産業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進などのため、農林水産省とNPO 法人グリーンテクノバンクの主催で開催されています。例年、本学も出展していますが、今回は初めて、(株)NTTドコモ、JAつべつ、(有)木樋桃源ファーム、(有)矢作農場とともに進めている「オホーツク中山間地高収益作物スマート農業コンソーシアム」として、合同で出展しました。

当日は、社会連携推進センターの三枝昌弘准教授が出展ブースに立ち、機械電気系の楊亮亮助教による機械工学や人工知能、ロボット技術を用い、傾斜地での有機玉ねぎの移植・除草作業の自動化による生産者稼働の省力化を目指す取り組みや、オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの活動紹介、本学の共同研究等について説明を行いました。

去年はオンライン開催を余儀なくされた本イベントですが、今年は感染症対策を講じた上で22の関係機関による実地開催となりました。本コンソーシアム並びに本学の研究内容について直接伝える機会を得られたことは、コロナ禍の現状において大変有意義なものとなりました。



出展会場の様子



来場者へ説明する三枝准教授

## オンライン版ネットワーク交流会（シーズ提供セミナー）に出展

（社会連携推進センター）

11月15日（月）～19日（金）の5日間、公益財団法人川崎市産業振興財団主催で開催された「オンライン版ネットワーク交流会（シーズ提供セミナー）」に、本学は初めて参加しました。

本イベントは、大学等の研究シーズを紹介することにより新技術・新製品・新サービス開発のきっかけを提供し、企業の新たな事業展開を促すと共に、新技術や産学連携に関心のある企業関係者の出会いの場を提供する目的で開催されています。オンライン開催は2回目となりますが、今回は、医療・福祉系と工学・ものづくり系の2つの分野で様々な技術に関する動画が配信さ

れました。

本学からは、応用化学系の天津直史教授が取り組む「簡便な表面処理プロセスで金属材料に生体機能を付加できる技術」について紹介しました。

オンラインでの開催のため、時間や場所を制限されることなく研究内容を周知することができ、これまで関わる機会のなかった企業等にも研究内容を知っていただける大変有意義な機会となりました。

これからの共同研究等への発展を期待し、本学の研究シーズを紹介できる貴重な場として、今後も本イベントに貢献していきたいと考えています。

①：簡便な表面処理プロセスで金属材料に生体機能を付加できる技術



抗菌および抗ウイルス活性値

$\Delta R = -\log_{10} \left( \frac{\text{施工済チタンの菌数 (ウイルス数)}}{\text{未施工チタンの菌数 (ウイルス数)}} \right)$

一般には  $\Delta R > 2$  で  
優れた抗菌効果

	抗ウイルス	
紫外光	1.7	2.7
可視光	0.6	0.6

紫外光照射下で、優れた抗ウイルス機能を示す！  
可視光に対する抗ウイルス機能は改良がまだ必要

北見工業大学 地球環境工学科 — 天津 直史教授

簡便で低コストな表面処理プロセスで、チタン系金属材料に抗菌・抗ウイルス機能を付加する技術や、医療用ステント金属材料の生体安全性を向上させる技術についてご紹介します。私たちは、昔からある金属表面処理技術である「陽極酸化」に色々な工夫を凝らすことで、これまで施工不可能であった金属材料への皮膜形成や新しい機能皮膜の形成に成功しています。産業や企業ニーズに応えられるよう出口を見ながら研究を行っています。

### 天津教授の動画掲載ページ

## オホーツク防災フォーラム 2021 を開催

(総務課)

11月20日(土)、本学講堂において「自然災害から命を守るために オホーツク防災フォーラム 2021」が開催されました。

本フォーラムでは、過去の身近な災害を振り返り、今後の気候変動下でも安全・安心に暮らすため北海道東部でも発生しうる自然災害への地域住民の意識啓発を目的とし開催され、新北海道スタイルを実践した感染対策下で、131人が参加しました。

本学鈴木聡一郎学長による開会挨拶に続き、第一部では気象予報士・防災士の菅井貴子さんによる「変わるオホーツクの気候

と災害～近年の世界的な気候変動と、オホーツク地域における気候変動と今後の予測について」と題した基調講演が行われました。

第二部では、むかわ町長竹中喜之氏や地域と歩む防災研究センターの川尻峻三センター長ら5人によるパネルディスカッションが行われ、「地域の大学に期待する防災研究とは」等をテーマに各パネリストが動画やスライド資料を用いて意見を交わしました。



講演する菅井さん



パネルディスカッションの様子



説明する川尻センター長

## 永年勤務者表彰式を挙

(総務課)

11月24日(水)、令和3年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式を第1会議室において挙

行しました。鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、永

年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50音順)

30年勤務者

氏名	所属
阿曾正浩	基礎教育系
亀田貴雄	社会環境系
川村武	情報通信系
武山真弓	機械電気系

20年勤務者

氏名	所属
曾根宏靖	情報通信系
高橋清	社会環境系
服部和幸	応用化学系



永年勤務者表彰式表彰者

## = 日誌 =

### 10 月

- 1日 秋季大学院入学式、総合型選拔出願受付（～8日）
- 4日 役員会
- 6日 インターンシップ事後研修会、学術情報機構統括会議
- 7日 教務委員会
- 8日 合同理事長選考会議
- 12日 経営協議会（オンライン）、進路選択ガイダンス、総合型選抜等実施委員会
- 13日 教育研究評議会、役員会、編入学試験（第2次募集）出願受付（～19日）、学術情報委員会
- 14日 広報戦略室会議、地域連携・国際交流委員会（書面審議）、発明審査委員会、アドミッションセンター運営会議
- 19日 学生委員会、進路選択ガイダンス
- 22日 総合型選抜等実施委員会、オープンアクセスウィーク2021ポスター展示（～11月1日）
- 25日 合同理事長選考会議
- 26日 進路選択ガイダンス
- 29日 総合型選抜

### 11 月

- 2日 進路選択ガイダンス
- 3日 父母懇談会（オンライン）
- 4日 学長選考会議、広報委員会、広報誌編集委員会
- 6日 官公庁合同セミナー
- 9日 入学者選抜委員会
- 10日 総合型選抜・モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試合格発表、学校推薦型選拔出願受付（～17日）
- 11日 地域連携・国際交流委員会、教務委員会、編入学試験（第2次募集）
- 16日 進路選択ガイダンス
- 18日 学長選考会議
- 19日 教育研究評議会（書面審議）、発明審査委員会、学生委員会、総合型選抜等実施委員会
- 20日 オホーツク防災フォーラム2021
- 25日 SPI対策模擬試験受検会
- 26日 総合型選抜等実施委員会
- 27日 北海道合同企業セミナー
- 29日 入学試験実施委員会
- 30日 役員会